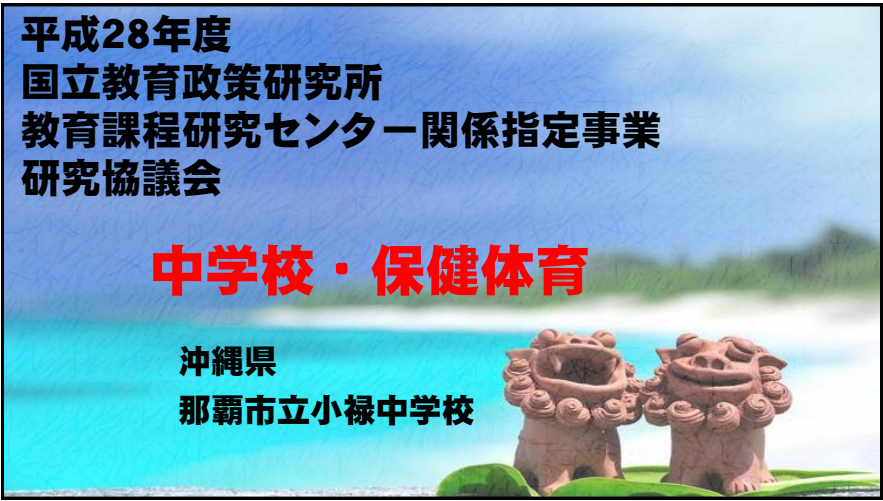


平成28年度
国立教育政策研究所
教育課程研究センター関係指定事業
研究協議会

中学校・保健体育

沖縄県
那覇市立小禄中学校





那覇市立小禄中学校

1. 研究主題等

学校教育目標

うるわしい心を持つ生徒
自ら学び考え行動する生徒
健康で自他の生命を尊重する生徒
勤労を尊び自ら進んで働く生徒





沖縄県

1. 研究主題等

長寿県

↓

肥満県

食文化の変容
運動不足

330ショック!



沖縄県の児童生徒

1. 研究主題等

体育授業以外に運動をしない生徒の割合が全国と比較して高い

「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）」

運動の二極化

一週間の総運動時間は全国平均と同程度
「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）」

時間

空間

仲間

獲得機会の減少

1. 研究主題等



本校生徒の現状

本県と同様の課題を抱えている

保健体育の授業が好き

体を動かすことが好き

保健体育の授業が理解できる



1. 研究主題等



研究主題及び設定理由

時間 空間 仲間

心と体を一体としてとらえる保健体育学習の充実

思考力・判断力等を育成を目指す指導と学習カード等の工夫

一層理解が深まる

思考力・判断力の育成が図られる

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成

健康の保持増進のための実践力の育成

1. 研究主題等



研究体制

研究推進チーム

校長・教頭・研究主任
養護教諭・保健体育科

那覇地区
中学校
体育研究会

沖縄県
教育庁
保健体育課

大学教員

2. 研究内容及び
具体的な研究活動



研究内容

国立教育政策研究所から示された研究課題

体育分野

運動を合理的に実践するため、運動の技能や知識を活用するなどの思考力・判断力を育成するための指導や評価方法等の工夫改善についての研究

保健分野

個人生活における健康課題を把握し、その解決を目指して具体的に考え、判断し、それらを表現する力の育成を目指して、「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究開発



研究内容

2. 研究内容及び具体的な研究活動

思考・判断の指導内容

体育分野

- ・ 課題に応じた運動の取り組み方の工夫【第1・2学年】
- ・ 自己の課題に応じた運動の取り組み方の工夫【第3学年】

保健分野

知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に行う等の指導方法の工夫

学習指導要領の趣旨を理解するとともに、

- 思考力・判断力等の育成に向けた学習指導と学習カード等の工夫改善。
- 他者との学び合いを通して言語活動の充実を図る。



研究内容

2. 研究内容及び具体的な研究活動

【体育分野】

○コミュニケーションを図る学習活動を充実する

- ・ 互いの演技のよさを認め合う。
- ・ 互いの運動課題について指摘し合う。
- ・ 互いに教え合う（学び合い）



○運動の技能のポイントを明確にし、課題解決に向けた学び合い





研究内容

2. 研究内容及び具体的な研究活動

【保健分野】

○筋道を立てて説明をする活動を充実させる

- ・ 個人生活における健康・安全に関する課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどの活動
- ・ 健康に関する概念や原則を基に、自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりする活動

○よりよく課題の解決を図る取組

- ・ 他者との学び合いの際には自己の考えを持たせ、他者の多様な考えに触れることで、見方や考え方を広げ、深めさせる





研究内容

2. 研究内容及び具体的な研究活動

【研究テーマに迫る取組】

○体育分野と保健分野の関連を図った学習指導

第1学年において、体育分野「体づくり運動」と保健分野「欲求やストレスへの対処と心の健康」の内容について、**関連を図った学習指導**を行う。

心と体が密接に関わり合っていることを体育学習で**体験を通して理解**し、保健学習で**科学的に学ぶ**ことによって**実感を伴った理解**を深める。



2. 研究内容及び
具体的な研究活動

具体的な探究活動

【**体育分野**】

- 「課題発見」「課題解決」に取り組めるよう、**習得・活用・探究(PDCAサイクル)**の学習指導の工夫。
- 課題解決に必要な知識や運動の技能を確実に習得し、**課題解決のポイントを明確**にする。
- 生徒に学習到達状況を評価するための評価基準表(ルーブリック)を明確に示し、個人やグループで**パフォーマンス**を行う。
- 課題解決に向けた学び合いの際には、見たり、考えたりしたことを**素早く仲間に伝える**ため、付せん紙を用いる。
- 生徒の意欲を高め、課題を追究できるように**活動の条件や制限等を簡易化**して活動を行う。
- ICTの活用により、「課題発見」「課題解決」及び**振り返り等の学習を充実**する。

2. 研究内容及び
具体的な研究活動

具体的な探究活動

【**保健分野**】

- 学習した知識を活用して学習したことと自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、**筋道を立ててそれらを説明する活動**。
- 生徒が単元の見通しや学習の流れを理解し、振り返り及び学び直し等ができるよう、**学習カード及びワークシート等は小単位ごとで作成**する。
- 自分の考えをまとめる際に、その理由や根拠を挙げて説明できるように、**発問の工夫**を行う。
- 学習を自分のこととして捉えさせるため、**学習形態は個人→グループ(集団)→個人**とする。

2. 研究内容及び
具体的な研究活動

具体的な探究活動

【**研究テーマ**】

- 学習カードを**体育分野と保健分野を表裏一枚**で作成する。
「体づくり運動」の単元初めに体ほぐしの運動を行い、運動前後の**心の状態を簡単な表情のイラスト**で示せるようにし、運動後の心の状態について、その理由を説明する。保健分野においては、体育分野での**体験を基に**、心と体はどのように繋がっているかを**科学的に学び、実感を伴った理解**を深める。
- 他者との学び合いの際には、理由や根拠を説明する活動やブレインストーミングを行う。

3. 研究の結果と
今後の取組

研究結果

【**体育分野 成果**】

実践① 第2学年 陸上競技「ハードル走」

○「課題発見」「課題解決」に取り組めるよう、習得・活用・探究(PDCAサイクル)の学習指導の工夫

○学習到達状況を評価するための評価基準表(ルーブリック)を明確に示し、個人やグループでパフォーマンスを行う。

【**学習課題**】

3歩のインターバルでリズミカルに走るためのポイントを見付ける。

自分に合ったインターバルのコースで仲間と課題解決を図る。

実践① 第2学年 陸上競技「ハードル走」

3. 研究の結果と今後の取組

○学習到達状況を評価するための評価基準表(ルブリック)を明確に示し、個人やグループでパフォーマンステストを行う。

単元の前段：ハードル走に必要な知識や運動の技能のポイントを学習

↓

課題を解決するためのポイントを明確にするためにグループでパフォーマンステストを実施

○ルブリックには、「ハードリング」の5つの項目にA,B,Cの基準を設定した。

○仲間と学習到達状況を確認し合う際には、生徒が技能を認知する力に配慮して、「Bできている」、「Cできていない」のどちらかを選ぶこととした。

パフォーマンステスト 評価表

	A	B	C
1. 踏み足(歩)×2	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。
2. 踏み足(走)×2	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。
3. コンビネーション(歩)×1	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。
4. コンビネーション(走)×2	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。
5. ハードル走×3	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。	踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。

ルブリック

実践① 第2学年 陸上競技「ハードル走」

3. 研究の結果と今後の取組

課題の解決に向けてパフォーマンステストの結果を基に、課題に応じた練習を計画して、説明する活動。

練習は、単元の前段で行った基本的な動きを身に付ける8つの練習の中から選ぶ(評価)

パフォーマンスの結果が「C」であった項目の練習を重点的に選ぶ

バランスを考えて、技術のポイントを均等に選ぶ

ルブリックを確認し、「A」を目指して練習を選ぶ

パフォーマンスの結果を基に、思考・判断・表現をしたことがわかる

課題解決学習 1

練習計画

1. 踏み足(歩)×2
2. 踏み足(走)×2
3. コンビネーション(歩)×1
4. コンビネーション(走)×2
5. ハードル走×3

計画の説明: 私の考えた課題は「前傾姿勢」なので、踏み足と前傾姿勢の練習をする。踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。ハードル走は、踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。

5

実践① 第2学年 陸上競技「ハードル走」

3. 研究の結果と今後の取組

計画した練習を実践し、仲間と課題の解決の状況を確認し、伝え合う活動

ハードル走を行い仲間と課題の解決の状況を確認する際には付せん紙を用いて、見たり、考えたりしたことを素早く相手に伝えた。

課題を解決するために必要な技能のポイントはルブリックに示して活動を行っているので、学習到達状況を確認し伝え合う場面では、視点を定めて相手に伝えたことが付せん紙に記された内容からわかる。

1回目、2回目と進むにつれて「Bできている」「Cできていない」だけでなく、さらに改善のポイントを助言するなど、技能を認知する力が徐々に高まっていた。

付せん紙に解決の状況を記入

実践① 第2学年 陸上競技「ハードル走」

3. 研究の結果と今後の取組

課題の解決に向けてパフォーマンステストや仲間からの指摘(付せん紙)を基に、課題に応じた練習を計画して、説明する活動。

前時と同様に課題に応じた練習を選んで計画する

→その際、思考する基となるものは

- パフォーマンステストの結果
- 解決の状況を伝え合った際の、仲間からの指摘(付せん紙)

生徒が計画した練習の説明

仲間から「踏み足」を指摘されたので(踏み足の)足裏を意識する。

前回、踏み足と前傾を改善すると良くなると言われたので、踏み足とコンビネーションの練習に取り組みたい

初めの解決するためのポイントと仲間から助言を受けたポイントについて重点的に練習を計画している。

課題解決学習 2

練習計画の追加・変更

1. 踏み足(歩)×2
2. 踏み足(走)×2
3. コンビネーション(歩)×1
4. コンビネーション(走)×2
5. ハードル走×3

計画の説明: 昨日の課題に「踏み足」が課題だったので「踏み足」の練習をする。踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。ハードル走は、踏み足をしっかりと踏み出し、前傾姿勢を保ち、踏み足をしっかりと踏み出す。

実践① 第2学年 陸上競技「ハードル走」

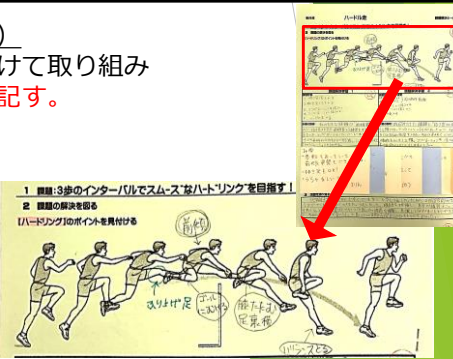
3. 研究の結果と今後の取組

学習課題「3歩のインターバルでリズムカルに走るためのポイントを見付ける」の解決を図る

技能の高まりを確認する（記録会）
→記録会の前に、課題の解決に向けて取り組み見付けたポイントをイラストに記す。

仲間と共に課題解決に向けて探究をする過程で気付いた課題解決のためのポイントを見付けることができ、記録の向上や技能の高まりを実感できた。

1. 記録・3歩のインターバルでスムーズなハートリングを目指す！
2. 課題の解決を図る
ハードリングのポイントを見付ける

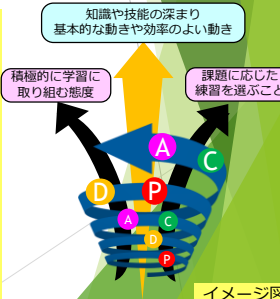


実践① 第2学年 陸上競技「ハードル走」まとめ

3. 研究の結果と今後の取組

○「課題発見」「課題解決」に取り組めるよう、習得・活用・探究(PDCAサイクル)の学習指導の工夫
○学習到達状況进行评估するための評価基準表(ルブリック)を明確に示し、個人やグループでパフォーマンスを行う。

パフォーマンスの結果や仲間からの指摘を基に、
●練習の計画 (Plan)
●運動の実践 (Do)
●仲間からの指摘 (Check)
●練習計画の改善 (Action)
と、生徒が積極的に「課題発見」「課題解決」に取り組むことができた。その結果、課題に応じた練習を選ぶことや知識や技能の深まり、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができた。



実践② 第2学年 球 技「サッカー」

3. 研究の結果と今後の取組

○生徒の意欲を高め、課題を追及できるように活動の条件や制限等を簡易化して活動を行う。
○ICTの活用により、「課題発見」「課題解決」及び振り返り等の学習を充実する。

【学習課題】
仲間と連携してゴール前の空いた場所に走り込むことができる。

プレイヤーの人数やコートの広さ、プレイ上の制限を工夫して、攻撃に視点を置いて、ボール操作やボールを持たないときの動き等について指導を行った。



実践② 第2学年 球 技「サッカー」

3. 研究の結果と今後の取組

○ICTの活用により、「課題発見」「課題解決」及び振り返り等の学習を充実する。

単元の前段：練習やゲームをととして自己やチームの課題を見付け、提供された練習方法の中から課題に応じた練習を選んで行った。

単元の後段：徐々に技能等が高まるにつれて、チーム力、特に守備の意識が高まってきた。

なかなか得点できなくなってきた。

相手の守備が堅い。

パスがうまく回らない。

解決しなければならない課題！



実践② 第2学年 球 技「サッカー」

3. 研究の結果と今後の取組

○ICTの活用により、「課題発見」「課題解決」及び振り返り等の学習を充実する。

【学習課題】
仲間と連携してゴール前の空いた場所に走り込むことができる。

着眼

発問

仲間と連携してゴール前の空いた場所に走りこむためには、どのようなことが必要か？

全ての生徒が自由に多くの意見を出せるよう、ブレインストーミングを行い、キーワード的に意見をまとめた。



実践② 第2学年 球 技「サッカー」

3. 研究の結果と今後の取組

○ICTの活用により、「課題発見」「課題解決」及び振り返り等の学習を充実する。

まとめたキーワードを基に…

①はじめのゲームで課題に応じた活動を試す。

②問：効果的であった方法や場面があったか？

ブレインストーミングの結果を見ながらチームで確認する。

③次のゲームで「効果的であった方法」を再確認したり、まだ試していない方法を試す。

④チームミーティングでは「効果的であった場面」をICT機器を活用して振り返り、課題の解決を図った。

学習のまとめの際にもICT機器を活用して、本時に生徒たちが「思考・判断」等を行った内容について、達成感や価値付けをした。

ICT機器を活用した振り返り



ICT機器を活用したまとめ



実践② 第2学年 球 技「サッカー」 まとめ

3. 研究の結果と今後の取組

○生徒の意欲を高め、課題を追究できるように活動の条件や制限等を簡易化して活動を行う。

○ICTの活用により、「課題発見」「課題解決」及び振り返り等の学習を充実する。

◎チームミーティングにおいて、全ての生徒が自由に多くの意見が出せるよう、活動の条件や制限等を簡易化するとともに、話し合いを活発にするためにブレインストーミングを行い、キーワード的に意見をまとめることができた。また、まとめたキーワードを基に課題に応じた活動を選んだり、まだ試していない活動を行うなど、効果的に課題追究することができた。

◎ICTの活用により、生徒たちが効果的に活用し、客観的に振り返ることができた。特に、課題解決のポイントを見付ける場面では、チームミーティングが活発となり、生徒たちの思考・判断した内容に達成感や価値づけ等を与えることができた。



研究結果【保健分野 成果】

3. 研究の結果と今後の取組

実践③ 第3学年「感染症の予防」

○学習した知識を活用して学習したことで自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明する活動。

前時まで：感染症の予防について

(1) 感染源についての対策

(2) 感染経路についての対策

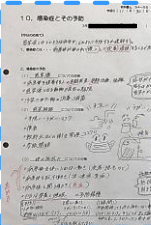
(3) 主体の抵抗力についての対策

について学習した。

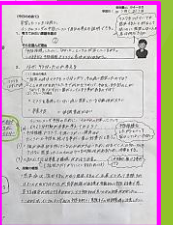
本時では：学習した知識を活用して学習したことで自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明する活動。

ワークシート

前時の学習



本時の学習



実践③ 第3学年「感染症の予防」

3. 研究の結果と今後の取組

○学習した知識を活用して学習したことと自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明する活動。

事例

3年生のAさんは、2・3日前から体調が悪かったが、テスト前なので我慢して登校していました。しかし、ついに我慢できずに保健室で体温を測ると38度を超えていました。病院を受診したところインフルエンザと診断されました。次の日から最初に発症したAさんの周りの生徒を中心に他の生徒も次々と発症し、感染が広がりました。学級内で多数の感染者が出たため学級閉鎖となりました。

対策の状況を見てみよう

課題に気付かせる！

①マスクと予防接種をしていたが感染した生徒
②マスクも予防接種もしていなかったが感染しなかった生徒

実践③ 第3学年「感染症の予防」

3. 研究の結果と今後の取組

○学習を自分のこととして捉えさせるため、学習形態は個→グループ（集団）→個とする。

二つの発生した問いを課題として解決したいと思うものを選んで課題解決を図る。

学習過程

①自分の考えを持つ（個）
②同じ課題を選んだグループで意見の交流（集団）
③新たな知識（学び直し）

(1) **感染源**についての対策 →→→ **感染のリスクを下げる**
(2) **感染経路**についての対策 →→→ **さらに、感染のリスクを下げる**
(3) **主体の抵抗力**についての対策 →→→ **さらに、感染のリスクを下げる**

それぞれの対策を行うことで感染するリスクを下げるができる！

→課題を選択することで、より意欲的に課題解決を図ることができる。

近くに「予防接種をした」のに感染した人がある。
このままでは「マスク」や「予防接種」の意味がなくなってしまうから。

実践③ 第3学年「感染症の予防」

3. 研究の結果と今後の取組

○自分の考えをまとめる際に、その理由や根拠を挙げて説明できるよう、発問の工夫を行う。

学習過程

④ **発問**

インフルエンザを予防するために、それぞれの対策についてどのような行動が必要か

説明をする場面では、「**3つ挙げること**」として、前時までに学習した内容の番号と対応させて説明をさせた。（評価）

対応して説明する

(1)感染源
(2)感染経路
(3)抵抗力

実践③ 第3学年 感染症の予防 まとめ

3. 研究の結果と今後の取組

○学習した知識を活用して、学習したことと自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けるなどして、筋道を立てて説明をすることができた。

○発問の工夫により、生徒に解決したい問いを選ばせ、課題解決を図ることができ、意欲的に課題に取り組むことができた。また、自分の考えを持ち、グループによる意見交換に臨んだ際には、他者の多様な考えに触れ、理由や根拠を挙げて自分の考えをまとめることができた。

○学習カード及びワークシート等の工夫により、生徒に単元の見通しや学習の流れを理解させ、まだ理解が十分でない内容についての振り返り及び学び直し等を実践に行うことができた。

88

研究結果

【研究テーマに迫る取組 成果】

3. 研究の結果と今後の取組

第1学年で体育分野「**体づくり運動**」と保健分野「**欲求やストレスへの対処と心の健康**」を一連の学習として位置づけて実践

- 学習カードを体育分野と保健分野を表裏
- 発問等で使う図を体育分野と保健分野で共有して関連させて指導を行った。

1. 学習のねらい

モヤモヤ → 楽しい

心 → 体

運動

2. ストレス

心 → 体

体 → 心

体づくり運動

3. 欲求やストレスへの対処と心の健康

心 → 体

体 → 心

欲求やストレスへの対処と心の健康

実践④ 研究テーマに迫る取組

第1学年 体育分野「**体づくり運動**」

3. 研究の結果と今後の取組

体づくり運動では、授業の初めに体ほぐしの運動を行い、運動の前と後の**心の状態を簡単な表情のイラスト**で示せるようにし、運動の後の心の状態についてはその**理由等を説明**させた。

- 個人、ペア、グループなど様々な形態で体ほぐしの運動を行い**自分に合った体ほぐしの運動**を行うことで、
→体ほぐれるだけでなく心までほぐれる
→心の状態が軽やかになることを体験した

体育分野では学習したことを体験し、実感を伴って理解した。

の

実践④ 研究テーマに迫る取組

第1学年 保健分野「**欲求やストレスへの対処と心の健康**」

3. 研究の結果と今後の取組

体育分野での体験を基に「心と体はどのように繋がっているか」を**科学的に理解**させ、仲間と協力して**自分に合ったストレスへの対処の仕方**を見つけて説明する学習活動

- 自分に合ったストレスへの対処の仕方を見付ける学習活動の際には、**仲間と共にブレインストーミング**を行った。
→様々な対処の仕方との出会い

友達のストレスへの対処の仕方が聞けてよかった！

友達の対処の仕方もやってみよう！

友達と話し合うことで共通する点が多くあり安心した

見方や考え方を広げることができた

2. ストレス

心 → 体

体 → 心

ブレインストーミングのまとめ

実践④ 研究テーマに迫る取組

第1学年 保健分野「**欲求やストレスへの対処と心の健康**」

3. 研究の結果と今後の取組

○自分に合ったストレスへの対処の仕方を見付ける際には、**仲間と共にブレインストーミング**
→様々な対処の仕方との出会い
→様々な対処の仕方と心との関わり
→**自分に合ったストレスへの対処の仕方について説明する。（評価）**

対処の仕方

- 対処しやすい方法
- ストレスに応じた対処の方法
- 体ほぐしの運動などの体験を通して実感を伴って理解した対処の方法**

ブレインストーミングのまとめ（評価）

授業でやった体ほぐしはたくさん動いて楽しかった。だから体ほぐしが合うと思う

体を動かすとスッキリするし、自然と笑顔になるから

実践④ 研究テーマに迫る取組 **まとめ**

5. 単元の感想

実技では、体づくり運動をした後、体がつながっている
 はずなのに、心からすきりとほっと感じました。
 保健では、なぜそう感じたのかを学び、理由を知り、運動以外に
 ストレスや欲求不満への対処の方法がわかったので、自分自身で
 活用していきたいです。体と心のつながりを知れたので、心身とも
 大切にしていきたいです。



3. 研究の結果と今後の取組

実践④ 研究テーマに迫る取組 **まとめ**

3. 研究の結果と今後の取組

- ◎ **体育分野では、個人、ペア、グループなど、様々な形態で自分にあった体ほぐしの運動を行うことにより、体がほぐれるだけでなく、心までほぐれることを体験し、心の状態も軽やかになること等について、実感を伴って理解を深めることができた。**
- ◎ **保健分野では、体育分野の体験を基に、仲間とともに様々なストレス対処の仕方と出会い、実生活に活かそうとする見方や考え方を広げることができた。**
- ◎ **関連を圖った学習指導により、心と体が密接に関わり合っていることを体育学習で体験を通して理解し、保健学習で科学的に学ぶことによって、より理解を深めることができた。**
- ◎ **学習カードを工夫し、表裏一枚で作成することにより、体育学習で体験したことを振り返ることができ、保健学習で理由や根拠を挙げて自分の考えをまとめる際に効果的であった。**
- ◎ **理由や根拠を説明する活動を重視したり、ブレインストーミング等を行うことにより、他者との学び合いを活発に行うことができた。**

研究結果【課題】

●現行学習指導要領及び趣旨の理解について

・保健分野において学習指導要領の例示のない内容の指導を行ったため、まとめの段階において、生徒が理解することが難しい状況が見られた。小学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領との系統性及び指導内容等の違いを明確にするとともに、取り上げている内容について、科学的に理解させることができるよう、さらに現行学習指導要領及び趣旨について理解を深めたい。

3. 研究の結果と今後の取組

研究結果【課題】

●思考力・判断力等の育成を目指す学習指導について

・指導と評価の一体化を目指した学習指導については、今後も研究と研修の必要がある。各領域、単元についての学習指導計画及び評価計画を作成し、授業実践に臨んでいるが、**四つの評価の観点**はそれぞれ関連性があるため、授業実施後ならびに、授業改善に向けては、**指導と評価の一体化を目指した学習指導の再構築**について、さらなる創意工夫が求められる。

・「思考・判断」の評価基準については、「生徒が理由や根拠を挙げて説明できること」を求めているため、「思考・判断」するための基となる知識や技能等が確実に身に付く指導の充実のため、保健体育科の研修のみならず、学校内での**教科を横断した取組が必要**であると考える。

3. 研究の結果と今後の取組



今後の取組

現行学習指導要領の趣旨及びさらなる理解に努め,確実な実施に努めるとともに,今年度,または二年間の研究の取組で挙げた課題について,保健分野と体育分野に加えて体育理論の内容との関連を図った学習指導について探究をする。

さらに,那覇地区及び沖縄県中学校体育研究会や関係大学等の関係団体との連携を図り,授業の工夫改善,指導力ならびに資質向上について研修する機会を広げ,共有化を図っていき

3. 研究の結果と
今後の取組